

岩手県野田村の支援活動報告（2011年7月6日）

7月に入ったこともあり、晴天、日差しが本格的にきつくなる中での活動となりました。この日の参加者は、学生5名、教員3名、市民16名の計24名（うち男性14名、女性10名）でした。少人数ながら、和気あいあいと活動できたのではと思います。この日は、「ガレキ撤去班」（男性7名）、「物資仕分け班」（女性7名）に加え、個人宅の畑仕事のお手伝い（4人×2グループ）、チーム北リアスと連携した仮設住宅への訪問（2人）というグループ編成で、支援活動を行いました。



休憩所での集合写真



準備体操

私は、前回に引き続き、物資の仕分け作業を行いました。前回と比べて、物資の量も落ち着き、体育館も整理されている印象を受けました。住民の方から提出された依頼リストをもって、品物を集めていき、梱包します。どこに何が配置してあるか、記憶力が試されます。二人組でもうろうろ迷って職員の方から場所を教えてもらう・・・というのが午前の作業風景でしたが、じょじょにスピードアップしていき、午後には、90件ほどの依頼すべてに対応、品物を揃えることができました。職員の方のお話では、毎日70件から100件程度の依頼があり、翌日には物資を支給しないといけないため、ボランティアがいない日は途方に暮れてしまうとのこと。物資仕分けは地味な作業ではありますが、生活が落ち着くまでしばらく欠かせない支援だと感じました。この日、人気が高く欠品になってしまった品物は、「敷物」、「ラグ」、「カセットコンロ」などで、仮設へ移られたという生活状況の変化が伺えました。

他の班の活動として、ガレキ撤去班は、暑い中の作業だったので、かなり大変だった様子でした。それでも、前回担当したお宅で引き続き作業することで、かなり片付いたとのこと。畑作業班では、訪問したお宅の方と交流があっただけでなく、畑作業に詳しい市民の方から学生がくわの使い方を学ぶといった形で、参加者同士の交流ができてよかったという感想が、帰りのバスで寄せられました。



物資の仕分け作業



畑仕事を手伝う

お昼は、前回に引き続き、米田地区の方に用意していただいたお弁当を食べました。「ボランティアの皆さんにはゆっくりと足を延ばして食べてほしい」という温かい配慮があり、米田地区の「かまどのつきや」というすてきな古民家に移動することになりました。差し入れの田楽、ヨモギの香りがする草餅までいただき、参加者一同、午後の作業に向けて元気を得ることができました。



古民家でのお昼ご飯



田楽と草餅

野田村社会福祉協議会からは、「災害復興ボランティアセンター」への名称変更、休業日の設定、被災者に寄り添った活動へのシフトについてお知らせがありました。一方、作道先生からの報告によると、役場には、ボランティアの参加者数が張り出されていたようです。ここ数日の数字は、7月1日（金）3団体37名、7月2日（土）10団体174名、7月3日（日）4団体110名、7月4日（月）2団体6名、7月5日（火）4団体18名、そして、7月5日までの合計参加者は9637名でした。（なお、私たちが参加した7月6日は、2団体30名の参加）。やはり、休日に多くのボランティアが参加しています。夏休みに入り、平日の参加者も増えることが期待される中、ボランティア活動も少しずつ変化していくのではないかと思います。

（担当：日比野愛子）